

今日はアモス書4章12節の御言葉から「あなたは、あなたの神に会う備えをせよ」と言うお話しをしたいと思います。みなさん、今の世はある人に言わせれば終わりの時ともいわれていますが、約2000年前私たちの罪のために十字架にかかって亡くなられたイエスさまが再臨される時が近づいているとも言われています。いつか神さまに会う時が来る…そういうことです。神さまにお会いする時にはその準備をしないとイケません。結婚式に出席する時、どのような格好で行きますか？きれいにしていきますね。ましてや私たちの神さまにお会いする時は外側だけではなく心もキレイにして神さまに会う準備をしなくてはイケませんよ、と聖書は語っているのです。

世界の平均年齢から見て、85歳というのはあまり先がないということになります。私は今85歳です。私も遠からずこの地上とお別れする時が来ると思うのです。しかし、私たちは明日のことも分からないでしょう。人間のいのちは神さまが握っておられるので私たちには分かりません。私は19歳の時に東京に行って救われました。「神さまを信じれば永遠のいのちをもつ。しかし神さまを信じなければ地獄に行ってしまう」ですから、山の中の郷里の人たちに何とか神さまを信じてもらいたいと思い、郷里に帰って3年間、炭鉱夫をしながら伝道していました。その時、ある婦人が来ました。この方は来た時から泣いていました。そして「先生。神さまがおるなら、どうしてうちの子が不幸なの？」と言ってきました。この婦人の家はその地の有力者でした。しかし、生まれた子供がダウン症だったのです。それから4人子どもを授かりましたが、何もかも悲しくなりました。「周りの友達の子どもは普通なのに、どうして神さま、うちの子がこうならなければならないのですか」と思っていたのです。そこで私は、このお母さんに言いました。「お母さん、確かに立派な大学に行くことは良いことかもしれない。でも、この子がいなければお母さんは教会に来なかったでしょう。人生は有名になることでも金持ちになることでもありません。一番大切なことはイエスさまを信じて永遠のいのちを得て天国に行くことです。だから、人間を造られたのは神さまです。どうしてその子がお母さんに与えられたかということ、お母さんだからその子を育てることが出来るからです。神さまがあなたにその子をお委ねになったのです。イエスさまを信じてごらん下さい。」と。するとお母さんは「分かりました。イエスさまを信じます」と来たその日にイエスさまを信じたのです。それから人生は変わりました。それから聖書を買って家で読んだ時に箴言の中に「子どもを懲らすことを差し控えてはならない。むちで打つても、彼は死ぬことはない。あなたがむちで彼を打つなら、彼のいのちをよみから救うことができる。(23:13・14)」とあります。今まで「可愛そうだ」と甘やかしていましたが、施設で訓練を受けさせるようになりました。すると、製材所で働くようになりました。そして奥さんのご主人、子どもさんが次々に救われました。みんなイエスさまを信じました。素晴らしいことです。そして奥さんは神さまに会い、1つお願いをしました。「私の主人が私よりも先に召されますように。子どもが障害者なので面倒を見させてください。」と。みなさん祈りはきかれました。ご主人は87歳で教会で父の日のお祝いをしてもらった次の日に亡くなりました。その次の日にダウン症の息子さんが58歳で召されました。ダウン症なのにとても長生きでした。それからしばらくして教会でお花見を一緒にした時「桜は見納めかな」と言っていました。その次の日は日曜日で復活祭でした。お母さんは息子さんに苦しみを訴えていました。息子さんは救急車を呼ぼうとしましたが、お母さんはその前に祈ってよ、と言いました。だから息子さんはお母さんを抱き上げ両手で包み「神さま、どうかお母さんを苦しみからお救い下さい。」と祈りました。それから3分もしないうちにサッと天に召されました。聖書には「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも あなたの家族も救われます。(使徒16:31)」と書いてあります。ですから、私たちが、私たちの神さまに会う備えをすることとは大事なことです。2011年3月11日に東日本大震災が起こりました。多くの方々が津波によって一瞬で亡くなり、今もなお行方不明の方もおられます。阪神淡路大震災も同じです。みなさん、人間は生きていていると思っているのですが、聖書には「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』」と書いてある。(マタイ4:4)」と書かれています。人間にいのちを与え、養っておられるのは神さまなんですね。ですからみなさん、いつ何時、どんな問題があっても天国に行ける準備をすることは大切です。

私が東北で伝道メッセージをする時神さまにお祈りをしていました。その時神さまから「ヨハネ3:36御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。からお話ししなさい」と言われました。また、聖書にはヨハネ3:16には「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と、あります。しかし36節は御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。と言っているのです。神さまは素晴らしい愛の方です。しかし罪は大嫌いです。来るべき御怒りから救われるようにお話ししなさいと言われたのです。そこで、カナダのトロント出身のオズワルト・J・スミス宣教師が書いた「魂と情熱」の中に書かれていたことを思い出したのです。イギリスで先生が伝道集会をした時、毎日教会がいっぱいになるほど人が訪れ、罪を悔い改めて救われたそうです。その中の1人に、この伝道集会を喜ばない酒屋の主人がいました。この人は、人を使ってこの集会をぶち壊してやろうとしていました。そして、その頼まれた人たちが教会に入ってむちゃくちゃにしようとしていた時、牧師先生のお話を聞いて、暴れるどころか罪を悔い改めて救われたのです。そして、また集会のメッセージを祈っていた時イザヤ38:1「そのころ、ヒゼキヤは病気になるまで死にかかっていた。そこへ、アモツの子、預言者イザヤが来て、彼に言った。「主はこう仰せられます。『あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。直らない。』」と語られました。神さまにこれは厳しい御言葉ですとお伝えしたのですが、この御言葉を取り次げと語られたので取り次いだそうです。その途端に、例の酒屋の主人が大暴れして先生の悪口をいっぱい言って集会を喰わしてしまったそうです。そうしてうちに、いきなり静かになりました。そして彼は口から血を吐いて死んだのです。神さまの前で最後まで悔い改めなければ死ぬのです。日本人は神に対する恐れが少ないです。みなさん、殺人を犯したまま天国に行けると思いませんか？結婚する前からたくさん子どもをつくって天国に行けますか？罪を悔い改めなくては入れません。神を畏れなければなりません。

先ほど話したダウン症の息子さんをもったお母さんのことを覚えていませんか？この人の他の息子たちもみんな救われて1人はブレイズ出版の社長をしてくれています。ここまでは順調に救われていたのですが、最後、おじいちゃんが大変でした。毎回神さまのことを挨拶から初めて「おはようございます。おじいちゃん。元気ですか？おじいちゃん、イエスさま信じて天国行きましょう地獄行っちゃいかんからね」と伝え続けていました。するとおじいちゃんは、毎回「は？天国？うそじゃろがお前！天国みてきたことあるんか？商売だからうまいこと言いやがって。うちはみんなクリスチャンになってめっちゃちゃだ」と良くなったのに、言い続けていました。しばらくして、おじいちゃんが死にそうな時が来ました。その時、奥さんが先生のところに「何とか救いに導いてください。」と言っていました。私も何とか地獄に行かせるわけにはいかない。もしこの人をこのまま地獄に行かせてしまつては伝道者の責任です。ですから、いつもとは違う厳しい口調でおじいさんに伝道しました。するとおじいさんは布団の上で起きあがって泣きながら詫言いで信仰告白を行いました。そしておじいさんの病氣は治り、2年くらい礼拝を守りました。

みなさん、今日まだイエスさまを信じないと言われますか？罪のまま死ねば滅びます。地獄に行きます。神さまの前で過去にどんな罪があっても悔い改めてイエスさまを信じれば赦されます。イエスさまは私たちの罪のために十字架にかかり三日目に甦られました。だからみなさん、信じたら永遠のいのちをもつことが出来ます。みなさん、いつ死んでも天国に行ける確信はありますか？今日、みなさんの中で地獄に行きたいと思う方、手を挙げてみてください。いないみたいですね！まだ、天国に行く準備が出来ていない人は、今日決心して信仰を持って歩んでください。(要約者：行司 佳世)